URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170111					
Genre	Research Paper					
Notes						
	research of German literature by the second-generation postwar writers who don't know the catastrophe of the Second World War from their own experiences.					
	testimony of Auschwitz's extreme condition, which no one can express in words or in images. Their theories of the impossibilities or the difficulties to remember and testify are fundamental to the					
	Huberman's "Images malgré tout". These theoretical works are based on the memory and the					
	Giorgio Agamben's "Remnants of Auschwitz : The Witness and the Archive" and Georges Didi-					
	In this year I also attempted to develop a theory of memory and testimony. I referred especially to					
	view. Bernhard Schlink's best-selling novel "The Reader" and Hans-Ulrich Treichel's autobiographical novel "Lost" are particularly valuable subjects for this research.					
	understand German literature by the second-generation postwar writers from various points of					
	cases but also on comparison between multiple authors. In this way it became possible to					
	In the second year, I tried to study German literature in the post-Cold War era not only in individual					
	following year.					
	speaking countries. I wrote a paper on their works, specially focused on Ransmayr's "The Dog King" and Sebald's "The Emigrants". This paper is a foundation for the research project in the					
	G. Sebald. These authors belong to the second-generation postwar writers in the German-					
	In the first year of this research project, I studied postwar stories by Christoph Ransmayr and W.					
	日本とドイツの比較という観点まで含めた考察を行う予定である。					
	三年目である平成30年度には、ポスト冷戦時代の戦後像というテーマについて、					
	てれてもなのーアラシュウィックからもさ取られた四枚の与真』にのいる与真論は, アラシュウィ   ッツという極限状態の想起の可能性/不可能性について考察する際に出発点となった。					
	およびディディ=ユベルマン『イメージ, それでもなおーアウシュヴィッツからもぎ取られた四枚の写真』における写真論は、アウシュヴィ					
	ガンベンの『アウシュヴィッツの残りのもの』におけるアーカイヴと証言者の理論,					
	今年度はさらに、記憶や証言をめぐる理論的な考察を深める努力を行った。とくにジョルジョ・ア					
	明らかに第二世代とは異なる戦後ドイツ像を示している。					
	一二事件』やティムール・ヴェルメシュ『帰ってきたヒトラー』によって代表される。これらは					
	また, 本研究を進める過程で, 第二世代と第三世代の戦後ドイク隊の違いにも着日する必要が至し     てきた。第三世代による戦後ドイツ像は, たとえばフェルディナント・フォン・シーラッハ『コリ					
	□これまで以上に多面的かつ立体的にとらえることが可能になった。 □また, 本研究を進める過程で, 第二世代と第三世代の戦後ドイツ像の違いにも着目する必要が生じ					
	戦後第二世代の戦後ドイツ像を、					
	本研究にとってとくに貴重な研究対象である。これらの作品を視野に入れることによって、					
	ヒェルの自伝的小説『失踪者』は,					
	めざした。ベルンハルト・シュリンクのベストセラー小説『朗読者』とハンス・ウルリヒ=トライ					
	複数の作家による同テーマの作品を比較的に観察することによって,より多角的に考察することを					
	請又を執筆した。それによりで、本研究ノロジェクトの土台を築くことができた。   それをふまえて二年目である平成29年度は, 一人一人の作家を個別に論じるのみではなく,					
	ゼーバルト『移民』を主たる対象として研究をおこない, 口頭発表を行い,  論文を執筆した。それによって, 本研究プロジェクトの土台を築くことができた。					
	戦後第二世代の作家クリストフ・ランスマイアーによる戦後小説『キタハラ病』およびW. G.					
Abstract	本研究プロジェクトの一年目である平成28年度は,					
JaLC DOI						
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)					
Publication year	2018					
Publisher	慶應義塾大学					
Author	川島, 建太郎(Kawashima, Kentarō)					
Sub Title	Postwar Germany for the second-generation : based on German literature in the post -cold war era					
Title	「第二世代」にとっての戦後ドイツ:ポスト冷戦時代のドイツ文学を手がかりに					
	ory or Academic resources					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 2017 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	100 (0	(C)	(C) 千円
	氏名	川島 建太郎	氏名 (英語)	Kentaro Kawashima			(0)	

#### 研究課題 (日本語)

「第二世代」にとっての戦後ドイツ - ポスト冷戦時代のドイツ文学を手がかりに

#### 研究課題 (英訳)

Postwar Germany for the Second-Generation - Based on German Literature in the post -Cold War Era

## 1. 研究成果実績の概要

本研究プロジェクトの一年目である平成 28 年度は、戦後第二世代の作家クリストフ・ランスマイアーによる戦後小説『キタハラ病』および W.G. ゼーバルト『移民』を主たる対象として研究をおこない、口頭発表を行い、論文を執筆した。それによって、本研究プロジェクトの土台を築くことができた。

それをふまえて二年目である平成29年度は、一人一人の作家を個別に論じるのみではなく、複数の作家による同テーマの作品を比較的に観察することによって、より多角的に考察することをめざした。ベルンハルト・シュリンクのベストセラー小説『朗読者』とハンス・ウルリヒ=トライヒェルの自伝的小説『失踪者』は、本研究にとってとくに貴重な研究対象である。これらの作品を視野に入れることによって、戦後第二世代の戦後ドイツ像を、これまで以上に多面的かつ立体的にとらえることが可能になった。

また、本研究を進める過程で、第二世代と第三世代の戦後ドイツ像の違いにも着目する必要が生じてきた。第三世代による戦後ドイツ像は、たとえばフェルディナント・フォン・シーラッハ『コリーニ事件』やティムール・ヴェルメシュ『帰ってきたヒトラー』によって代表される。これらは明らかに第二世代とは異なる戦後ドイツ像を示している。

今年度はさらに、記憶や証言をめぐる理論的な考察を深める努力を行った。とくにジョルジョ・アガンベンの『アウシュヴィッツの残りのもの』におけるアーカイヴと証言者の理論、およびディディ=ユベルマン『イメージ、それでもなおーアウシュヴィッツからもぎ取られた四枚の写真』における写真論は、アウシュヴィッツという極限状態の想起の可能性/不可能性について考察する際に出発点となった。

三年目である平成 30 年度には、ポスト冷戦時代の戦後像というテーマについて、日本とドイツの比較という観点まで含めた考察を行う予定である。

### 2. 研究成果実績の概要(英訳)

In the first year of this research project, I studied postwar stories by Christoph Ransmayr and W. G. Sebald. These authors belong to the second-generation postwar writers in the German-speaking countries. I wrote a paper on their works, specially focused on Ransmayr's "The Dog King" and Sebald's "The Emigrants". This paper is a foundation for the research project in the following year. In the second year, I tried to study German literature in the post -Cold War era not only in individual cases but also on comparison between multiple authors. In this way it became possible to understand German literature by the second-generation postwar writers from various points of view. Bernhard Schlink's best-selling novel "The Reader" and Hans-Ulrich Treichel's autobiographical novel "Lost" are particularly valuable subjects for this research.

In this year I also attempted to develop a theory of memory and testimony. I referred especially to Giorgio Agamben's "Remnants of Auschwitz: The Witness and the Archive" and Georges Didi-Huberman's "Images malgré tout". These theoretical works are based on the memory and the testimony of Auschwitz's extreme condition, which no one can express in words or in images. Their theories of the impossibilities or the difficulties to remember and testify are fundamental to the research of German literature by the second-generation postwar writers who don't know the catastrophe of the Second World War from their own experiences.

_	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		-						
	3. 本研究課題に関する発表								
	発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)					
川島	<b>身 建太郎</b>	J	JGG-Tagung, Symposium III: Erinnerungsliteratur nach 1945. Medien, Kontroversen, Narrationsformen	2017年10月1日					